

## Safety Report

セーフティレポート 高齢者

三重県警察本部が高齢運転者向けに  
参加体験型のセミナーを開催

6月24日、三重県警察本部が鈴鹿サーキット交通教育センターで「緊急！高齢運転者 ブレーキ体験等セミナー（以下、セミナー）」を開催。交通安全シルバーリーダーや老人クラブの会員など18名の高齢者が受講した。

三重県警察本部交通部交通企画課交通安全対策室の森本誠課長補佐は開催の背景を次のように説明する。「三重県では本年5月末時点で、アクセルとブレーキの踏み間違いによる人身事故が24件発生し、そのうち10件が65歳以上の運転者によるものです。こうした事故を防ぐため、高齢運転者の方々に自分が思っている運転能力と実際に運転した結果を対比できる機会を設け、安全運転に役立てていただこうと考えました。また、衝突軽減ブレーキなど先進の安全運転支援システムを搭載したクルマの普及につなげていきたいと思っています」。

セミナーの講師を務めるのは、鈴鹿サーキット交通教育センターの平井真所長。まず、Hondaが開発した高齢運転者向けプログラムの一つ「健康ドライブ体操」で身体をほぐす。

次に、運転習慣チェックプログラム。受講者一人ひとりがDSPシステム（1面参照）を搭載したトレーニング車両に乗車し、指定されたコースを走行する。助手席には三重県警の交通機動隊員などが同乗。コースの途中には、一時停止場所やカーブ、上り下り、右左折、横断歩道の通過などチェックポイントが設けられている。走行中、受講者のアクセルやブレーキ、ウィンカーの操作状況、コースの走行軌跡などを測定。走行が終わると、車内に設置されたタブレット端末に「合図は正しく余裕を持って早めに出している」「一時停止では確実に停止している」など質問が10項目表示され、自分の運転行動について4段階で自己評価する。教室で測定結果と評価表を配付し、測定結果の見方を説明。評価表には、自己評価と各チェックポイントでの測定データに基づいた客観的評価を並べて記載。受講者の多くが自己評価より客観的評価が低くなっているため、その要因を同乗した警察官を交え、考えてもらう。最後に、平井所長は「苦手な面があったなら、それに対応できる運転をしましょう。今の体調と気分をご自身がしっかりと

と見つめ、『今日は、やめたほうがいいのか』と思った時は、その気持ちを大切にしてください。そして、まわりの人にも声をかけましょう。皆が交通事故に遭わないよう、皆で注意をしあってください」とアドバイスした。このほか、セミナーでは衝突軽減ブレーキの体感なども行われた。

老人クラブの会長を務めているという78歳の受講者は「一時停止場所で自分では止まっているつもりでしたが、走行データを確認すると実際には止まっていなかったことがわかりました。自分の弱点を知ることができたのでそれを補う運転をします。また、老人クラブの会合の時に今日学んだことを仲間にも伝えようと思います」と話す。

三重県警察本部では今後、自動車教習所の協力を得て、県内各地で高齢運転者を対象にした安全運転教育を実施していく考えだ。



健康ドライブ体操では、アクセルからブレーキへの踏み替えをイメージしながら足のストレッチを行う



運転習慣チェックプログラムでは、横断歩道の手前に駐車車両（写真右）がいる場合に一時停止しているかなど受講者の運転行動を評価



走行終了後、車内に設置されているタブレット端末に自分の運転に対する評価を入力



同乗していた警察官を交え、自己評価と客観的評価が乖離している要因などを話し合う



インストラクターが運転するクルマでの衝突軽減ブレーキの効果を見学

## Close Up

クローズアップ 四輪販売会社

高齢のお客様に日頃の運転中の意識や  
行動について振り返っていただく

7月20日、21日の両日、Honda Cars 金山角田東店（宮城県角田市）がお客様向けのイベント「夏の大感謝祭」を開催。来場した高齢のお客様を対象に、Hondaが開発したプログラム「みんなで安全運転行動診断（以下、みんなで安診）」を活用した安全運転教育を行った。このプログラムは、すべての運転者の方に日頃の運転を振り返りながら、運転操作の誤りによる交通事故を防ぐための安全行動の重要性に気づいていただくことを目的としている。

同店営業の松野翔さんは「高齢のお客様が事故に遭わないために私たちにできることはないか考えていたところ、『みんなで安診』を知りました。導入研修で私自身がプログラム

を体験して、これなら店頭で実施できるし、お客様のためにもなると思い、今回のイベントに取り入れることにしました」と話す。「みんなで安診」は運転中の「乗車」「発進」「走行」における日頃の意識や行動の自己評価と、その後の体験を通じた再評価をお客様に比較してもらうという内容だ。「乗車」「発進」時の安全の不確認を原因とした事故を防ぐため、クルマの死角の確認と併せて安全な乗車手順を紹介することで、乗車前の周囲の安全確認、セレクトポジションの目視確認、クリーブ現象を利用した発進の重要性を説明。松野さんは「乗車前の安全確認は短い時間でできる簡単なことなので、ぜひ習慣にしましょう」と強調した。

「走行」時については「皆さん、私とじゃんけんをしてみましょう」と、じゃんけんによる反応体験を行う。通常のじゃんけんを行った後、松野さんが出した手を見てから勝つ手を出さず後出しじゃんけん。さらに、後出しで負けるじゃんけんとなり、通常のじゃんけんより対応が難しくなる。これは運転中に起きる予想外の状況を例えたもので、単純な行動であっても予想外の状況では「認知（見る）・判断（決める）・操作（行動する）」が難しいことを実感してもらうことがねらいだ。「正確に見て、決めて、行動するためには余裕もった行動と早めの危険予測が重要です」と松野さんは伝えた。最後に、お客様が「体験によって気づいたこと」「今後、何に気をつけるか」を診断シートにまとめ、終了となった。

受講した70代のお客様は「自分は注意して運転していると思っていましたが、不十分だったことがわかりました。今までできていなかった乗車前の安全確認は、今日からやってみようと思います。また、発進する時、走り出すことだけに意識が向いていることに気づけたので、セレクトポジションを確認した

り、周囲をよく観るゆとりを持てるよう気をつけます」と感想を語った。

「夏の大感謝祭」には、お客様と一緒に子どもも多数来場したことから「できるニャンと交通安全を学ぶ」（4面参照）を活用した交通安全教室を実施。子どもたちに安全行動の基本となる「止まる」「観る」「待つ」を身につけてもらうための指導を行った。

『みんなで安診』『できるニャンと交通安全を学ぶ』いずれも参加された皆様に好評だったので今後も店頭で随時実施していこうと思います」と松野さんはいふ。

このほか、先進の安全運転支援システム「Honda SENSING」の体感試乗会を実施。スタッフが運転するクルマにお客様が同乗し、衝突軽減ブレーキなどを体感した。2日間、同店は様々なプログラムを通じて、お客様への安全アドバイスをを行った。



子どもを対象に「できるニャンと交通安全を学ぶ」を実施



クルマの後方の死角をお客様と一緒に確認



安全な乗車手順や正しい運転姿勢を説明



じゃんけんによる反応体験